

救急受診の目安【発熱】

最も出現頻度の高い症状です。発熱とは、体内において炎症反応があると、脳にある体温を調整する部位より発熱物質が放出され、体温が上昇します。熱の高さと病気の重症度は必ずしも一致しませんので、熱以外の症状も気を付けてあげてください。熱の出るときは、手足が冷たくなり寒気が出てきます。暖かくして、十分な水分補給を行い、汗をよく拭いてあげてください。

救急受診の目安

- 3ヶ月未満の乳児
- 39度以上の発熱
- 水分摂取ができていない。
- ぐったりしていて、呼吸が苦しそう
- 12時間以上おしっこが出ていない。
- けいれんを起こす。

上記のポイントを参考にして、病院受診の目安にしてください。夜中に高熱が出て、これらの異常なく、比較的元気そうなら朝まで待って、かかりつけ医に受診しましょう。（夜中に救急受診するほうが負担になる場合もあります。）

解熱剤の使い方

- 乳幼児がぐったりとしている（水分補給ができていない）、又はおしっここの量が非常に少なくなっているなどを目安に解熱剤は使用してみてください。解熱させて水分補給してもらうのが目的です。
- これまでにけいれんを起こしたことがある乳幼児は高熱時にまたけいれんを起こす可能性があります。可能であれば解熱剤を使用して速やかに38度以下にしてあげてください。また医療機関よりけいれんの予防目的の薬があれば投与してください。
- 39.5度以上の場合は速やかに解熱剤を使用してください。ただし口から水分補給ができており、比較的元気にしていれば、38.5度を超えていても様子を見て大丈夫です。
- 続けて使用する場合は6時間以上開けて、1日3回までです。

緊急の場合は、当院電話待ち受けでお知らせする電話番号におかけください。

小児科内科 堅田医院

078-871-6078（診療時間外は待ち受けで対応）

救急対応は

神戸こども初期急病センター 078-891-3499

<http://www.kobe-kodomoqq.jp/>